



植物園の奥なる隅に四本の喬木たかぎハンカ  
チノキの寄りあへり

夏めきて光したたる朝空にハンカチノ  
キはハンカチーフ垂らす

ハンカチノキは枝々に苞あまたつらね  
それぞれはためく苞は

神父ダビッドの中国原産ダビディアは  
白き微光を湛へて空に

ひろひたるダビディアの苞しつとりと  
白天ピロイド鶯絨の手ざはりに似る



左上 「習志野ドイツフェア2018」会場  
左下 習志野ソーセージ

右上 ドイツ捕虜オーケストラの碑  
右下 ドイツ兵士と習志野 市庁舎展示

## ふるさとコレクション——136

### 習志野ソーセージ（千葉県習志野市）

大正4年、習志野市東習志野の習志野俘虜収容所に第一次世界大戦中、日本の捕虜となったドイツ兵約1,000人が収容されていた。捕虜達は人間性を失わず、ドイツ料理をし、菜園を作り、野外ステージで演劇やオーケストラ（平成20年記念碑建立）、またサッカーなどスポーツも楽しんだ。地域の人との交流も多く、洗濯を請負い、見学の小学生に瓶の中に帆船を組み立てた「ボトルシップ」を土産に贈ったりした。残されていたボトルシップは市で保管している。

ソーセージはドイツ人のソーセージ職人が日本で最初に習志野収容所で技術指導講習会をし国産化を可能にしたと伝えられる。それには西郷寅太郎（隆盛の嫡男）所長の熱心な説得があったという。

習志野市は100年前のドイツ式ソーセージ伝承の地という歴史的事実をもとに、習志野商工会議所が「習志野ソーセージ」を地域ブランドとして育てている。昨年10月13、14日、津田沼公園にて第8回目の「習志野ドイツフェア2018」が開催された。ドイツ伝承のソーセージをもとにした新作試食会もあり大いに賑わった。

（写真・解説 藤野 宏子）